

最優秀賞受賞にあたって

静岡県浜松市立細江中学校

やま だ たつ お

山田 達夫



このたび栄えある第36回東書教育賞最優秀賞を受賞することができましたことは、大変光栄なことであり、大きな喜びを感じております。

私が勤務する浜松市立細江中学校は、生徒数521人、19学級で、創立52年目を迎える学校です。本校は浜名湖北部に位置し、豊かな自然環境と大河ドラマ「女城主 井伊直虎」の舞台となった歴史のある環境にあります。

以前、高校入試を目前にした3年生全員に対して校長面接を行った際に、ふるさとのよさや課題等、地域についての思いを語る子供は少なく、学校や学びが地域での実生活や実社会と十分に繋がっていないことが要因と考えました。そこで、キャリア教育を学校経営の核に置き、とくに総合的な学習の時間（本校では「ホソ・トレ」と呼ぶ）に、細江地域を学びのフィールドとした地域課題の探究的な学習に取り組むことにしました。

私は、このホソ・トレに思いを込めています。一つは、「細江中学校の学び」です。ホソ・トレは、初めての試みをたくさんやっているように見えますが、実はそうではありません。もちろん、ネーミングや発表会の形式には新たな試みもあります。これまでの本校の学びの歴史を紐解くと、地域と深くかわり、課題解決型の学びを行ってきました。過去のそうした学びがあって今があります。こうして受け継がれてきた学びを、未来につなげていきたいという思いです。

もう一つは、「学びのスタイル」です。自分の興味や関心のあることに、「これはどうなっているのか」、「ここが知りたい」と、自分自身で取り組むことで初めて自分の中に定着していくものです。つまり、疑問や課題など問題意識をもち、その課題解決のために、情報を集め、実際にフィールドワークやインタビューを行い、整理・分析したものをまとめ、発信するという探究的な学びのスタイルを身に付けてほしいという思いです。

今年度は、コロナ禍で様々な制約がありましたが、子供たちの学びは、教科や学校を超えて社会に広がっていきました。つまり、「知りたいは、教科を超え、学校を超える」を実感しています。

最後に、今回の実践は、タイトルにもあるように「次代を創る子供たち」を学校も地域もみんなで育てようとする試みで、地域の協力がなければ成立しなかったものです。子供たちの学びに御協力いただきました地元の商店街・商工会・企業・自治体・大学等の皆様、そして地域の皆様に感謝申し上げます。今回の受賞は、学校としての大きな自信であり、職員の今後の励みになるものとなりました。今後も子供たちの心の中に「未来につながる宝物」が増えていくことを願い、これからも子供たちに必要な資質・能力の育成に努めてまいりたいと思います。